



岐阜県国際園芸アカデミーでは、『花壇苗づくり』や『花束づくり』や『ハーバリウムづくり』、『庭木の剪定』といった体験講座や花にまつわる座学、園芸福祉に関する講座などの『一般県民向けの生涯学習講座』と、園芸店や造園緑化業や園芸サポーターを対象とした『実務者向け講座（一部は一般県民も参加可）』を毎年開講しています。

取材した9月6日は、『【2回シリーズ】花壇苗づくりと活用講座～めざせ!苗づくり名人～』の2回目の講座で、参加した20名の方々が『花壇苗のポット上げ』と『マイクロ寄せ植え制作』を学んでいました。



セルトレイで育てた花苗


セルトレイとは、発芽から育苗までをスムーズに行うための専用トレイ。

1回目の7月講座で、参加者がセルトレイに播種をしたものを岐阜県国際園芸アカデミーが2回目の9月講座まで預かり、温度、湿度を管理し、水やりをして、育苗した。



ポット上げの時期

ポット上げの時期は、本葉が展開し、根が播種床の底からでてくるくらいまわった頃。

(で囲んだ所をみると根が出ているのが分かる)



今回使用する培養土

加茂農林高校が販売している培養土。

(窒素 N6 : リン酸 P9 : カリウム K6)

空気の層を作り、土をふかふかにする木質堆肥、水持ちをする素材のココナツファイバー、水を持ちすぎない人口軽石や赤玉土を上手い割合で配合する工夫がなされている。



ポットに培養土をつめる

水をあげると土が下がることを考慮して土を詰め、約1cmのウォータースペースをつくる。

土を詰めた後はトントンと机に打ち付ける程度とし、土をぎゅっと手で抑え付けて、圧縮しすぎないように注意する。



苗を植える穴を空ける

指または割り箸で土に穴をあける。

<p>ストック、パンジー、ビオラ等 葉牡丹等</p> 	<p>穴の深さ</p> <p>植え方は花苗によって2種類ある。 ストックや葉牡丹等は葉が土の上に来るくらい深植えにし、パンジー、ビオラ、撫子等は土が根の肩になる程度に植える。</p>
	<p>セルトレイから花苗を取り出す</p> <p>セルトレイから花苗を取り出す際は根を傷めないようにする。</p>
	<p>ポット上げ</p> <p>1つのポットに1つの苗を植える。 いつまでも狭いセルトレイの中におくと生育不良をおこすが、ポット上げをすることで小さい花苗がぐんぐん大きい株になる。</p>
	<p>その他</p> <p>ポット上げ後の花の種類毎の管理方法(灌水、鉢の置き場所、肥料、スペーシング、摘心等)や、病気や害虫についても学ぶ。</p>



マイクロ寄せ植え用の苗

マイクロ寄せ植え用苗の育成は、岐阜県国際園芸アカデミーが開発した技法。

極小サイズ(406穴)の狭いセルトレイに播種し、根にストレスを与えることで、葉の育成を阻害して小さく可愛いままの苗を育成する。

忙しくて、播種用セルトレイからポット上げをする時期を逸してしまった花苗が小さいまま花を咲かせた失敗からヒントを得た。



マイクロ寄せ植えを楽しむ

今回はマイクロ寄せ植え用の苗、ケイトウ4株、ヒポエステス3株を寄せ植え。

ケイトウは小さいもので3cm、大きくても5cmに満たないサイズで可愛い。



マイクロ寄せ植え

写真でボールペンのサイズと比較してお分かりいただけるように、マイクロ寄せ植えは手のひらサイズの寄せ植えて、卓上に飾るのにピッタリ。



灌水

ポット上げや寄せ植えをした直後は、水をたっぷりあげて、根と土をなじませる。

それ以降は、水やり後しばらくは水を控えめにし、表面が乾きだしたら水をあげる。

(写真左は岐阜県国際園芸アカデミー花き生産コースの前田宝秀准教授。今回の生涯学習講座を担当された。)



気持ちをつなぐ ～園芸への想い、母への想い～

今回の最高齢参加者は 85 歳の大野さん。
花を育てたり、畑で野菜を作ったりすることが大好きだったお母さんのために、お母さん想いの 3 姉妹が家族での参加を決めた。



学びをスキルアップに

昨年に続き 2 回目の参加のお二人。
講座で学んだ『花壇苗づくり』の知識を、『野菜苗づくり』や『園芸福祉ボランティア』にもしたいと考えている。



友達の輪が広がる

見知らぬ人同士が集まったテーブル。
講座の途中まではお互い気遣いながらの遠慮がちな会話であったが、講座修了時には和気藹々と仲良くなっていた。
生涯学習講座は、学びを得るだけでなく、趣味を同じくする方と知り合える場にもなる。